

災害のとき情報入手するには



■ 避難情報入手するには

テレビ、ラジオ、防災行政無線、緊急速報メール、公式ツイッターなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）、広報車・消防団による広報、電話・FAX・登録制メール、消防団や警察、自主防災組織、近隣住民などからの声かけ、大和町ホームページなどから情報を入手できます。

■ 気象情報入手するには

テレビやラジオ、気象庁ホームページ（<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>）の気象警報・注意報や台風情報、レーダー・ナウキャストなどから情報を入手できます。

■ 内閣府、国土交通省ホームページ

内閣府防災情報のページ（<http://www.bousai.go.jp>）や国土交通省携帯サイト（<http://www.mlit.go.jp/mobile/top.html>）、川の防災情報スマホ版（<http://www.river.go.jp/s/>）などから情報を入手できます。



気象庁ホームページ



内閣府防災情報のページ

■ 大和町ホームページ

気象情報や避難情報などへジャンプできます。



大和町ホームページ



国土交通省携帯サイト



川の防災情報スマホ版

町

水防団などへ注意喚起
休校の判断、体制の確認など

要配慮者のいる施設や
地下街などに情報を伝達

① 避難準備・高齢者等避難開始

高齢の人や障がいのある人、乳幼児などの要配慮者と支援する人は避難を始めます

避難を始めます

② 避難勧告

③ 避難指示（緊急）

今すぐ避難してください。外出することが危険な場合は近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう

住民のみなさん

テレビ、ラジオ、インターネットなどで気象情報を確認。ハザードマップなどで避難所の避難ルートを確認
非常持出品などを確認

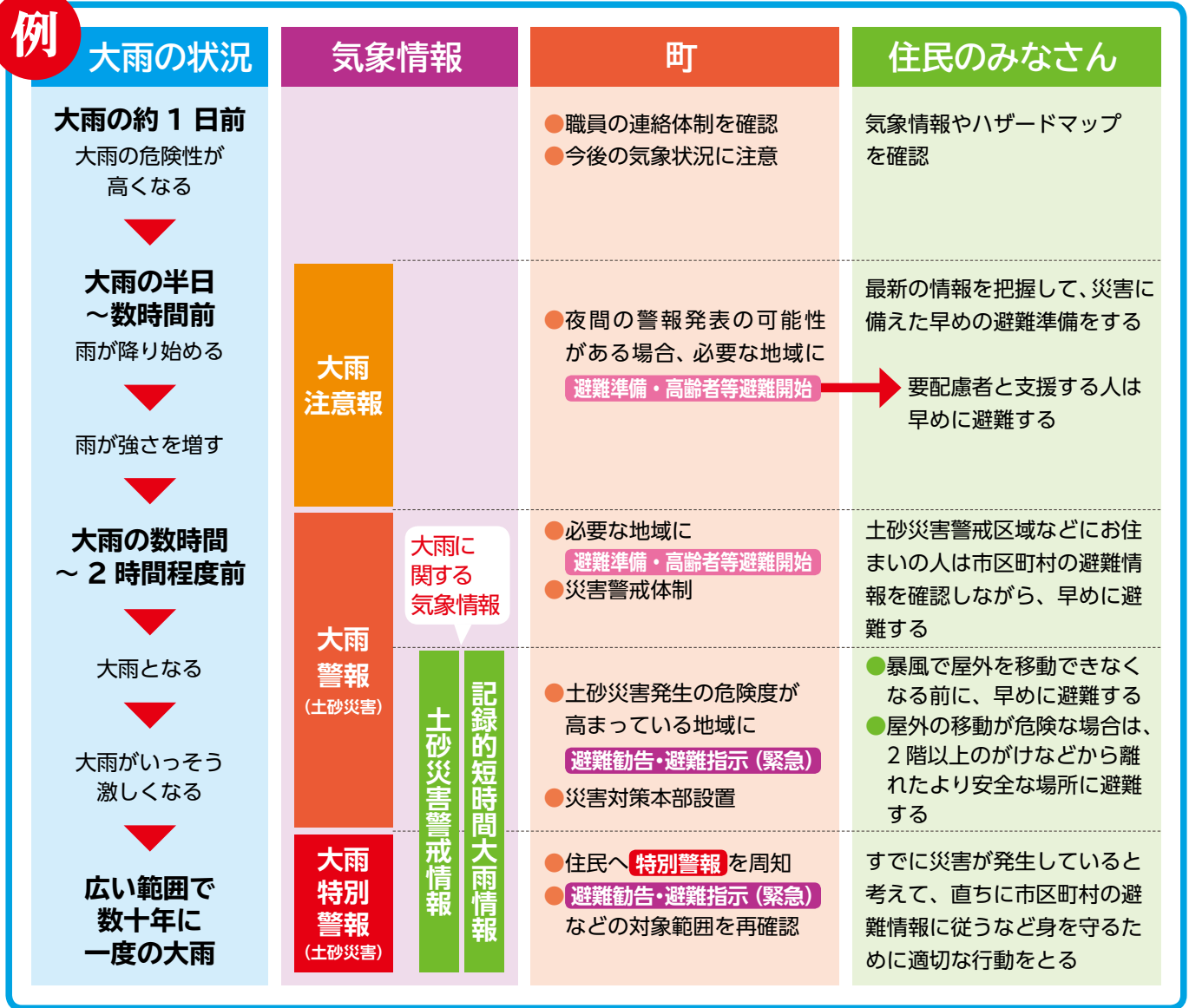
要配慮者と支援する人の避難開始
要配慮者以外の方は避難の準備

避難開始

避難完了

大雨と土砂災害に備える

気象庁では注意報や警報、気象情報などを発表して、災害に備えるよう呼びかけています。大雨による土砂災害の例を見てみましょう。



大雨注意報	大雨によって災害が起こるおそれのあるときは注意報を発表します。
大雨警報 (土砂災害)	大雨によって重大な災害が起こるおそれのあるときは警報を発表します。雨がやんでも重大な土砂災害などのおそれがあるときは、発表を継続します。
大雨特別警報 (土砂災害)	さらに、重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは特別警報を発表します。特別警報は警報の基準をはるかに超える数十年に一度の大災害が発生すると予想される場合に発表されるので、最大限の警戒が必要となります。
土砂災害警戒情報	大雨警報 (土砂災害) が発表されている中で土砂災害発生の危険度がさらに高まったとき発表されます。
記録的短時間大雨情報	数年に一度しか発生しないような短時間の大雨を観測した場合に発表されます。
避難準備・高齢者等避難開始	要配慮者と支援する人は避難を始めてください。
避難勧告・避難指示 (緊急)	避難勧告は速やかに避難開始、避難指示 (緊急) は緊急に避難してください。

土砂災害の危険が迫ると土砂災害警戒情報が発表されます

大雨警報（土砂災害）が発表されている中で土砂災害の危険度が非常に高くなったとき、都道府県と気象庁は「土砂災害警戒情報」を発表します。町ではこの情報が発表されたら避難行動の対応について検討を始めます。

大雨警報や土砂災害警戒情報が発表されたら、土砂災害の発生するおそれのある地区にお住まいの人は、避難情報や土砂災害警戒判定メッシュ情報などを活用して早めの避難を心がけてください。

前兆に注意しましょう！

次のような現象を確認したら早めに避難しましょう。

■ がけ崩れ

- ・がけに割れ目が見える。
- ・がけから水が噴き出す。
- ・湧き水がにごりだす。
- ・樹木が傾いたり、揺れる音がする。
- ・地鳴りがする。



■ 土石流

- ・落石が生じる。
- ・川の水がにごったり、流木が交ざる。
- ・地鳴りや山鳴りがする。
- ・雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。
- ・腐った土のにおいがする。



■ 地すべり

- ・地面にひび割れができる。
- ・井戸や沢の水がにごる。
- ・斜面から水が噴き出す。
- ・家やよう壁に亀裂が入る。
- ・よう壁や樹木、電柱が傾く。



土砂災害警戒区域・特別警戒区域とは

土砂災害防止法に基づいて危険な場所が指定されます。土砂災害警戒区域をイエローゾーン、土砂災害特別警戒区域をレッドゾーンと呼んでいます。

国土交通省や都道府県のホームページ、市区町村が配布するハザードマップなどで確認することができます。



土砂災害・浸水害・洪水害の「危険度分布」情報を活用しよう！

気象庁は、土砂災害・浸水害・洪水害の危険度の高まりを面的に確認できる「危険度分布」について、ホームページで公開しています。

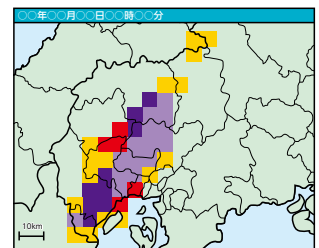
大雨警報（土砂災害）の危険度分布（土砂災害警戒判定メッシュ情報）、大雨警報（浸水害）の危険度分布、洪水警報の危険度分布について危険度ごとに色分けして発表していますので、活用してください。

土砂災害警戒情報・土砂災害警戒判定メッシュ情報の発表例

〇〇県

土砂災害警戒情報 第1号

平成〇〇年〇月〇日 〇時〇分
〇〇県〇〇地方気象台共同発表



危険度	土砂災害発生の危険度の高まり	内閣府のガイドラインで土砂災害警戒区域等を対象に発令が必要とされている避難情報
高	実況で土砂災害警戒情報の基準に到達	避難指示(緊急)
	予想で土砂災害警戒情報の基準に到達	避難勧告
	大雨警報の基準に到達	避難準備・高齢者等避難開始
	大雨注意報の基準に到達	—
低	大雨注意報の基準未滿	—

風水害から身を守る

家の内外の風水害対策

台風や大雨の到来は予測できるからと安易に考えてはいけません。台風や大雨は私たちに何度も大きな災害をもたらしています。油断せず、日ごろから十分な対策を立てておきましょう。

屋外

屋根

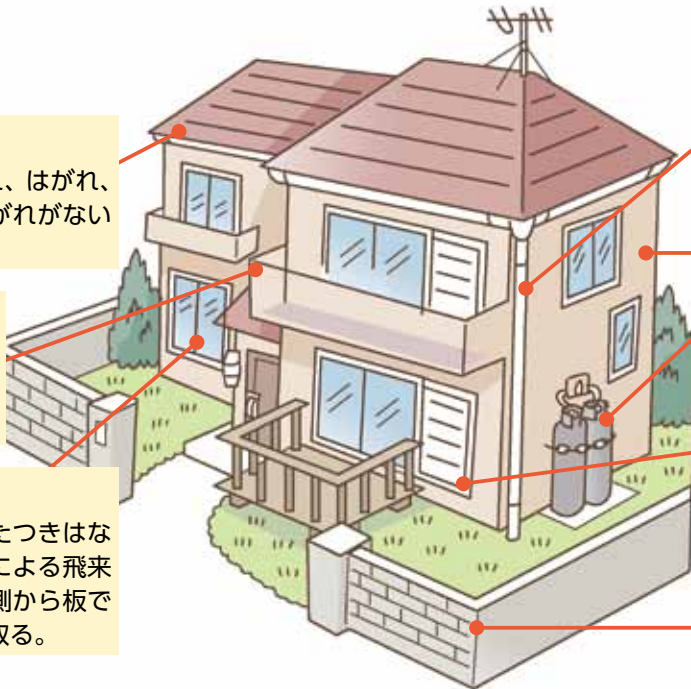
瓦のひび、割れ、ずれ、はがれ、トタンのめくれ、はがれがないかを確認。

バルコニー

鉢植えや物干しざおなど飛散の危険が高い物は室内へ。

窓ガラス

ひび割れ、窓枠のがたつきはないか確認。また強風による飛来物などに備えて、外側から板でふさぐなどの処置を取る。



雨どい

継ぎ目のはずれや塗装のはがれ、腐りがないか確認。落ち葉や土砂で詰まらせないように掃除しておく。

外壁

モルタルの壁に亀裂はないか、板壁に腐りや浮きはないか、プロパンガスのボンベは固定されているか、などを確認。

雨戸

がたつきやゆるみなどがあれば補強する。

ブロック塀・側溝

ブロック塀はひび割れや破損箇所を補強する。側溝はゴミや土砂を取り除き、雨水の排水をよくしておく。

屋内

台風や大雨が近づいてきたら

- 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオを準備する。
- 避難に備えて貴重品などの非常持出品を準備する。
- 気象情報をテレビ・ラジオで注意深く聞く。
- 断水などに備えて、飲料水などを確保しておく。
- むやみに外出しない。
- 浸水などのおそれがあるところでは、家財道具や食料品、衣類、寝具などの生活用品を2階などの高い場所へ移動させる。
- 高齢者や乳幼児、病人などを安全な場所へ避難させる。



風雨が強まってきたら

■ むやみに外出しない

台風や豪雨の危険性があるときは、むやみに外出しないようにしてください。外出するときは気象情報を確認し、危険な場所に近づかないように心がけ、早めに帰宅しましょう。



■ 自宅の備えを

被害が心配される場合には、窓ガラスの内側に×印にガムテープを貼るなどの対策を。子どもや高齢者などを早めに安全な場所に避難させることも検討しましょう。



これはキケン!

風雨が強まる中での以下の行為は危険です。絶対にやめましょう。

- ・ 屋根に上って補強する
- ・ 自宅周辺や田畑の状況を見回りする
- ・ 様子を見るために堤防や海辺に近づく

被災後の安全確認

台風や豪雨が去った後は、危険が潜んでいることが多いので、地域ぐるみで協力し合いながら安全に復旧活動をしましょう。

- 断線した電線が垂れていたら、木製の棒などで安全な場所へ移す。
- 落下や倒壊しそうな危険物があれば、直ちに補強や除去をする。
- 浸水の被害に遭ったら消毒を念入りにする。
- 水害を受けたら衛生面に注意する。水道水は煮沸し、手の消毒を忘れないなどの注意が必要。
- 活動時にはけがをしないように肌を露出しない服装にする。ヘルメットを着用して落下物に備える。
- 家の中は、風通しをよくして乾燥させる。

自らの判断で避難行動 ～危険を感じたらすぐに避難を～

近年、台風による大雨等により、逃げ遅れた住民が被害を受けるケースが多くあります。特に突発的な集中豪雨では、町の避難に関する情報が間に合わない場合もあるため、危険を感じたときは自らが判断し、避難行動をとる必要があります。風水害では、事前に気象情報を入手することができるため、正しい情報の入手（27ページ参照）と早めの避難行動をとることがとても重要です

避難に対する基本的な考え方

■ 避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。それぞれが自ら判断し、適切な行動を取らなければなりません。

例えば

- 土砂災害の危険がある地域に住んでいる
- 堤防の決壊で家屋消失・浸水の危険がある地域に住んでいる
- 子どもや高齢者など家族に要配慮者がいる



■ 命を守る避難行動を

危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難場所への移動だけでなく、近隣のより安全な場所などに避難するなど、命を守る避難行動をとることが重要です。



例えば

- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい
- ひざ上まで浸水している（50センチ以上）
- 浸水は20センチ程度だが、水の流れる速度が速い
- 浸水は10センチ程度だが、用水路などの位置が不明で転落の恐れがある

とにかく早期の避難を心がけてください

屋外での移動は危険です。浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上へ緊急に一時避難し、救助を待つことも検討してください

風水害時の安全避難のポイント

■ 安全な服装で、持ち物は最小限に

ヘルメットで頭を保護。靴はひもでしっかりしめられる運動靴をはく。荷物は背負い、両手が使えるようにする。



■ 隣近所で声を掛け合って

避難は2人以上で。隣近所を誘って集団で避難する。子どもや高齢者などの要配慮者に気を配る。



■ 車は使わない

車は数十センチの浸水で浮いてしまい危険。他の避難者や緊急車両の妨げにもなる。徒歩で避難する。



■ マンホールや側溝に注意を

急激な大雨が下水管に流れ込むと管内の圧力が上昇し、マンホールのふたを開けてしまう場合がある。浸水が進む状況では、マンホールや側溝への転落に十分注意する。



普段から避難場所までの安全な経路などを確認しておきましょう





S UK" T-Ýb"

yÖipz|TZsU'
 0X^>hhVzS w
 Á>-Ýb" {S U
 sZ•y*"t •}{
 Šz jèCq "&%
 ç x ^ . Ž Ů † † ^ + £
 w > 'Tb" {

S UsMqVxzzu>-Ýb"

y†' w³qðæ>_ozíUih"<Uih" `oM
 •y@zuK "{^MoMsMTÓ^q§OzupK•
 y@zus`çú -£qQ...`çYt³ y->æO{

yzuUK" Ôùxz. > #²VtøTdzíw
 w{ _q{a>0XĂ[²tZb{Ítsl
 h >K]tKoUMz<K] >²tZ`o>"
 >-b" çsî. •£

³ y - > æO

f†' > 'sÔttKS²ZtøTdzý• xfw
 #~Vt†{ _qjts" {
 „³w ææt" Mw w {
 'w tÛMæü > poz
 fwít<O°Mw w {
 ' > Ov" {
 ... {a>óy`z³Uÿ .
 ĩ½ Ů ^ % 'Ot³!<
 b{ \w ^ ^ > ü t
 ™ swĂ ĩ Û p
 y-b" {

yŒçwÔùx Šw!pz³w°^w üw
 SŮ% 'Ot!b{

zuUsZ•y »zu>æO

ç s£ ※省略可能

fKS²ZtøTd" {
 „"Mw w{'>'t
 poz<O" Mw w
 ^`!qæ!><K
]wŒtpooĚjí
 [z„>™-tf'b {
 ...>">-`h†††
 ' w"> m†% {G
 VX±>%Zo†'
 w±>SSMzÿ µ
 TZO >'V % {
 'V ^sU'³UÍ
 U"w>-Ýb" {
 †Mlhæ±>m`z<
 O s'V % {

y »zuw•"Mt×ôUsMÔù•±q±U
 Ú€€îb" \qt ĂUK" Ôùsrxz³
 y-iZ> "&b{

³ y-q »zu>æO

y³ y-> sz
 »zu s> . ç Ă
 q`oz\w ^ ^ > y
 xB†hx "&% Ux£
 b"†pX"&b{

y-ç~ŒçwÔù<z »zu> sz³ y
 -> swĂ ù pX"&b{

" & % U § M h '

y?>³ăç«ç†l^£xzú -w†' wyĚtG! @s ^pb{ú
 Ě\O>æloM" M p p ç " & % ç x ^ . Ž Ů † † ^ + £ U § M h ' z " & %
 t' " x po> Œ^d†`•O{?o>Œ•"q;`Ýç.`'qăĪÓ
 pî^b, V \ q ; ! Œ ^ • † b w p z f • t H l o â ^ ` o X i ^ M {